

Oil Market Review 22第22号

2022年（令和四年）

9月9日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カチドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

8/25～8/31のNYMEX・WTI先物市場は、89.55～97.01ドルの範囲で推移した。

9月1日は、中国各地での感染再拡大による行動制限強化の動きから、中国経済の後退懸念が強く意識され、続落した。欧米の積極的金利引き上げの動きによる景気後退懸念も引き続き下がり要因となった。10月限の終値は前日比2.94ドル安の86.61ドル。

週末2日は、翌週のOPECプラス閣僚会合を前に、減産合意の観測も出る中、ポジション調整の動きが目立ち、小幅ながら、4営業日ぶりに反発した。10月限の終値は前日比0.26ドル高の86.87ドル。

5日は、レイバーデーの休日につき休場。この日、OPECプラスは合同閣僚委員会(JMC)をWEB開催し、最近の原油価格軟化に対応して、従来の小幅増産方針を転換し、10月の生産水準を前月比10万b/d減産することで合意した。

連休明け6日は、前日の合意を受けて堅調に始まったが、その後、減産幅が小さく実効性に欠く、あるいは、既に価格に織り込み済みであるとして下落、欧米先進国の積極的利上げ・中国各地での感染再拡大に伴う都市封鎖再開による景気後退懸念もあって、ほぼ横ばいで終わった。10月限の終値は前日比0.01ドル高の86.88ドル。

7日は、欧米各国の積極的金利引き上げ、さらに中国の8月の貿易統計の予想を下回る鈍化などを背景とする景気後退懸念の拡大により、3営業日ぶりに大幅に反落、本年1月以来の安値を記録した。10月限の終値は前日比4.94ドル安の81.94ドル。

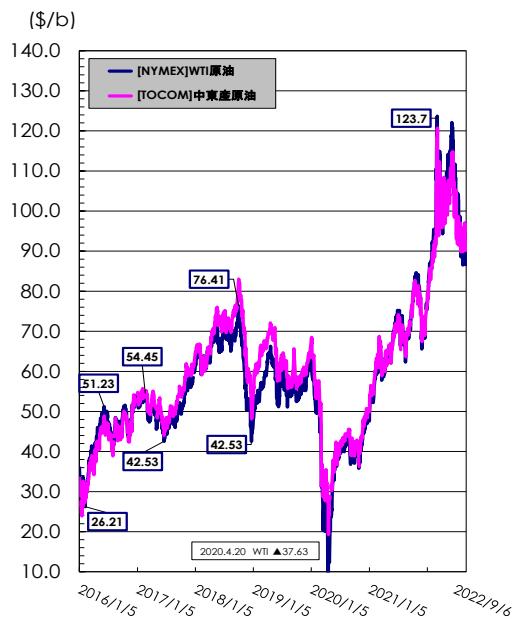
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月度)は、8月25日～31日の間、97.40～102.90ドルの範囲で推移した。9月1日94.30ドル、2日93.80ドル、5日94.70ドル、6日95.50ドル、7日91.90ドルで推移した。

為替は、8月25日～31日の間、136.76～138.63円の範囲で推移した。9月1日139.53円、2日140.09円、5日140.35円、6日140.27円、7日143.12円で推移した。

財務省が9月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月中旬の原油輸入平均CIF価格は、94,437円で、前旬比3,552円安、ドル建て112.36ドルで前旬比1.29ドル安、為替レートは1ドル/133.63円だった。

そのような中で、9月5日時点の価格は、ガソリンが前週比1.1円の値上がり、軽油も同1.1円の値上がり、灯油は8円の値上がり(18kgベース)であった。ガソリンは4週ぶりの値上がり、軽油も4週ぶりの値上がり、灯油も4週ぶりの値上がりであった。ガソリンの全国平均価格は169.6円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は36.5円となった。

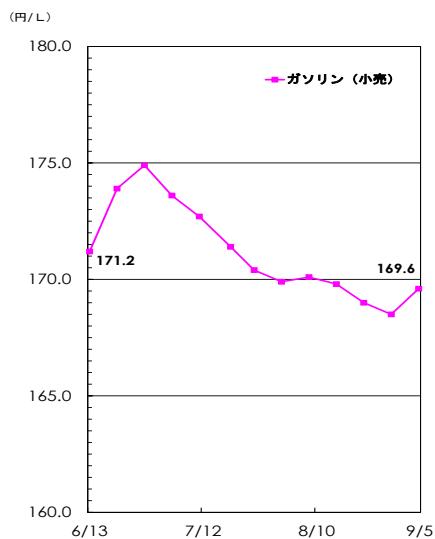
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	8/28～9/3	3,211	▼ -71	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	〃	83.4	▼ -1.9	▲ -
	原油在庫量 (千㎘)	9/3	10,031	▲ 657	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/5	90.62	▼ -4.58	▲ 21.6
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	9/6	86.88	▼ -10.13	▲ 18.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月中旬	112.36	▼ -1.29	▲ 38.58
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	〃	94,437	▼ -3,552	▲ 43,440
	②ドル換算レート (¥/\$)	〃	133.63	▲ 3.46	▼ -23.74
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/5	141.35	▼ -2.01	▼ -30.52



ウィークリー オイル マーケット レビュー 22第22号

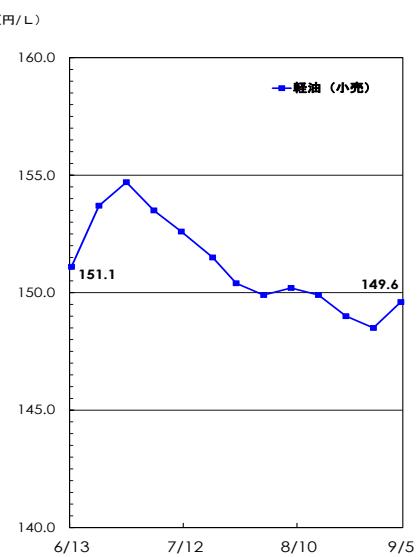
ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/28 ~ 9/3	888	▼ -22
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	838	▲ 95
	輸出	"	80	▲ 44
	在庫	9/3	1,493	▼ -31
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/30 ~ 9/5	78.8	▼ -0.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	8/30 ~ 9/5	80.0	► 0.0
	(TOCOM/中部)	9/5	77.5	▲ 1.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/5	169.6	▲ 1.1

※業転、先物価格は税抜き価格

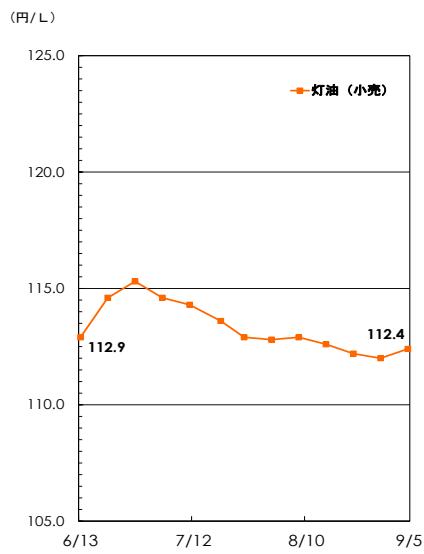


軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/28 ~ 9/3	867	▲ 65
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	619	▼ -24
	輸出	"	285	▲ 99
	在庫	9/3	1,440	▼ -37
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/30 ~ 9/5	77.0	▲ 2.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	8/30 ~ 9/5	80.3	▲ 1.1
	(TOCOM/中部)	9/5	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/5	149.6	▲ 1.1

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	8/28 ~ 9/3	191	▲ 69
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	121	▲ 31
	輸出	"	24	▲ 24
	在庫	9/3	1,951	▲ 46
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/30 ~ 9/5	77.2	▲ 2.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	8/30 ~ 9/5	78.7	► 0.0
	(TOCOM/中部)	9/5	75.5	▲ 1.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/5	112.4	▲ 0.4



■ 関連情報

1 海外/原油

今週の石油先物市場は、世界的な景気後退懸念の拡大を低下要因、OPECプラスの減産観測を上昇要因として始まった。5日、OPECプラスは10万b/d減産で合意したが、結局は軟化し、8か月ぶりの安値で終わった。WTI先物の終値は9月1日86.61ドルから、7日の81.94ドルと推移した。

9月2日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫情報は、週末3連休のため、8日の発表予定。市場予想によると、原油在庫が前週比330万バレル減、ガソリン在庫が170万バレル減、中間留分在庫が50万バレル増となっている。

EIAによると、9月5日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比8.1セント値下がりの1ガロン3.746ドル(139.7円/㍑)と12

週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.1セント値下がりの1ガロン5.084ドル(189.6円/㍑)と2週ぶりの値下がりであった。

ペーカーヒューズ社によると、9月2日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比9基減の596基と2週ぶりの減少となつた。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年8月28日～9月3日に休止したトップ能力は5.7万バレル/日で、前週に対して2.1万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は321.1万kLと、前週に比べ7.1万kL減少。前年に対しては21.1万kLの増加。トップ稼働率は83.4%と前週に対して1.9ポイントの減少、前年に対しては5.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.4%減、ジェット/27.8%減、灯油/56.8%増、軽油/8.1%増、A重油/9.8%増、C重油/5.4%増。今週のC重油の輸入は10.1万kL(前週比10.1万kL増)。軽油の輸出は28.5万kL(前週比9.9万kL増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、灯油、A重油が増産、その他の油種で減少した。前年比では灯油、軽油が減少し、その他の油種で増産した。ガソリンの出荷は83.8万kL(前週12.8%増)と4週振りに増加した。ジェット5.3万kL(前週7.5%減)、灯油12.1万kL(前週33.7%増)、軽油61.9万

kL(対前週3.8%減)、A重油19.4万kL(対前週18.6%増)、C重油23.1万kL(対前週19.5%減)

(単位:千kL)

	今週 (8/28 ~ 9/3)	前週 (8/21 ~ 8/27)	前週比
ガソリン	838	743	▲ 95 (13%)
ジェット燃料	53	57	▼ -4 (-7%)
灯油	121	90	▲ 31 (34%)
軽油	619	643	▼ -24 (-4%)
A重油	194	164	▲ 30 (18%)
C重油	231	287	▼ -56 (-20%)
合計	2,056	1,984	▲ 72 (4%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月3日時点の在庫は灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは149.3万kL、前週差3.1万kL減。前年に対しては12.7万kL少ない。

灯油は195.1万kL、前週差4.6万kL増。前年に対しては18.7万kL少ない。

軽油は144.0万kL、前週差3.7万kL減。前年に対しては14.4万kL少ない。

A重油は67.9万kL、前週差1.5万kL減。前年に対しては6.7万kL少ない。

C重油は178.5万kL、前週差11.1万kL増。前年に対しては13.4万kL少ない。

(単位:千kL)

	今週 (9/3)	前週 (8/27)	前週比
ガソリン	1,493	1,524	▼ -31 (-2%)
ジェット燃料	840	843	▼ -3 (-0%)
灯油	1,951	1,905	▲ 46 (2%)
軽油	1,440	1,477	▼ -37 (-3%)
A重油	679	694	▼ -15 (-2%)
C重油	1,785	1,674	▲ 111 (7%)
合計	8,188	8,117	▲ 71 (0.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月30日～9月5日の指標原油価格は前週比で値下がりし、為替レートは円安だったが、元売会社の原油コストは、1.0円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額37.1円を加えたコスト上昇額36.1円に、補助金36.5円(計算上38.0円になるが、35円を超える値上がり分は半額補助)が支給されることから、

次週(9/8～9/14)の元売会社の実質的な卸価格は0.4円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月30日～9月5日の製品スポット市況は、8月23日～29日平均と比べ、陸上・海上のガソリンの値下がり、先物・ガソリンと先物・灯油の横ばいを除いて、他の取引・油種で値上がりした。

直近週(8/30～9/5)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/23～8/29)比で、ガソリンは0.3円の値下がり、灯油は2.5円の値上がり、軽油は2.6円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(8/30～9/5)に、前週(8/23～8/29)比で、ガソリンは0.1円の値下り、灯油は2.7円の値上がり、軽油1.2円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は1.1円の値上がりだった。

(RIM)		(単位:円/㍑)	
[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (8/30～9/5)	前週 (8/23～8/29)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー 78.8	79.1	▼ -0.3
	灯油 77.2	74.7	▲ 2.5
	軽油 77.0	74.4	▲ 2.6

(TOCOM)		(単位:円/㍑)	
[期近物/終値 [平均]]	今週 (8/30～9/5)	前週 (8/23～8/29)	前週比
先 物 価 格	レギュラー 80.0	80.0	► 0.0
	灯油 78.7	78.7	► 0.0
	軽油 80.3	79.2	▲ 1.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/30～9/5実績値) (単位:円/㍑)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.3	► 0.0	▼ -0.2
灯油	▲ 2.5	► 0.0	▲ 1.3
軽油	▲ 2.6	▲ 1.1	▲ 1.9
A重油	▲ 3.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月5日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.1円高の169.6円、軽油も同1.1円高の149.6円、灯油は18.1%ベースで同8円高の2,024円(1%ベースでは同0.4円高の112.4円)。ガソリンは4週ぶりの値上がり、軽油も4週ぶりの値上がり、灯油も4週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは39都道府県、横ばいは4県、値下がりは4県だった。全国最安値は宮城県の162.7円、その次は埼玉県の162.8円であった。他方、最高値は長崎県の182.5円だった。最も値上がりしたのは宮城県(前週比3.2円高)、横ばいは大分県など4県、最も値下がりしたのは福岡県(同1.1円安)だった。

次回調査時(9/12)のガソリンの小売価格は、先週の値上げ転嫁の遅れがあることから、値上がりが予想される。

(単位:円/㍑)				
(資源庁公表) [週動向]	今週 (9/5)	前週 (8/29)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー 169.6	168.5	▲ 1.1	08/8/4 185.1
	灯油 112.4	112.0	▲ 0.4	08/8/11 132.1
	軽油 149.6	148.5	▲ 1.1	08/8/4 167.4

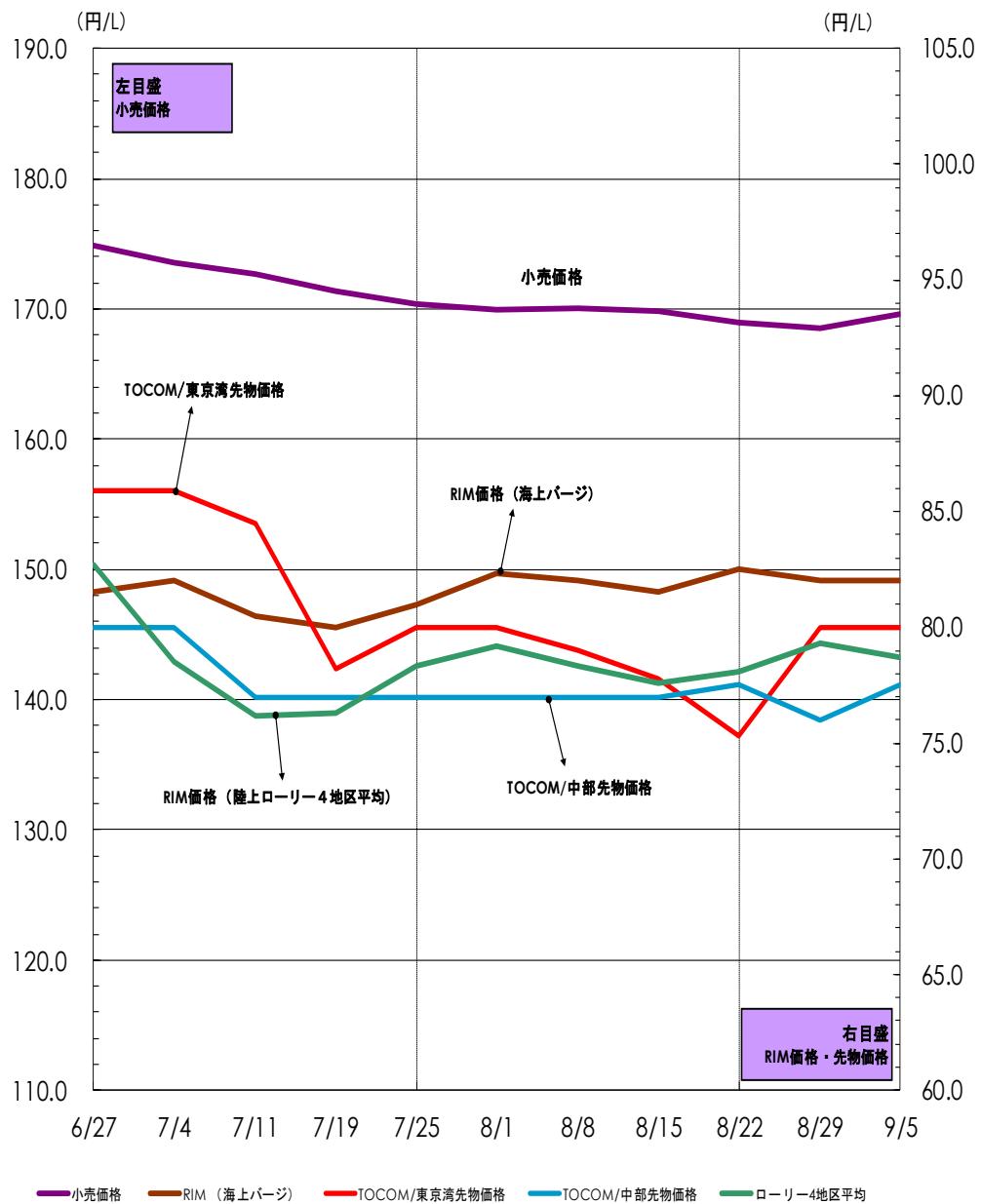
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/6/27 ~ 2022/9/5)



■ 小売価格 ■ RIM (海上バージ) ■ TOCOM/東京湾先物価格 ■ TOCOM/中部先物価格 ■ ローリー4地区平均

(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。

次回（2022第23号）の公表は、9/16（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁HPに掲載）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。